京城新報

●陰曆 五月十日
發行編輯兼印刷人 秋山忠三郎
發行所 京城新報社 電話六六三番

宮相李允用（四）

翠山生

▲其の頃大院君には孔德里に在せられし故、其の胸中は鬱悒煩悶々の情殆んど遣るに所なかつた、當時岡本柳之介氏は軍部顧問として韓政府に重きを爲して居つたが言ふ迄もなく大院君には自体贔負であるから彼れは大院君の胸の内を非常に不氣の毒に感じ且つ之が從來の勢力をば挽回し來らん爲め或る時大院君の許に馳せ參じて大に將來の謀を獻じ策を說くところがあつた、大院君も一方ならず彼れが心事を德とした、が、マア徐ろに謀を運らすに若くはなしと靜かに機運の到來するを待ち構へて居つた

▲サテ當時の露國全權公使は讀者も豫て承知して居る通り彼の外交術に掛けてはすこぶる抜け目のないウェーバー氏であつたが彼れは着任早々自國の勢力を飽迄盛ならしむる爲めマヅ最初の手段として其の妻女をして閔妃に取り入らしめ次で自己の方寸通り着々と手を伸ばして行つた固より言ふ迄もなく閔妃には露西亞贔負であるから一も二もなく彼れを信任し共に帷幄の中に魂膽を運らしたのである所で李兄弟は前にも述べた通り大院君の勢力が俄然として失墜し到底他日挽回の策なきを見て取つた反面には閔妃の勢力が隆々として宛かも旭日昇天の概あるところから多年恩誼に預かつた大切な舅殿のことなどは感心にもスッカリ打ち忘れで了ひ專ら閔妃の爲めに渾身の力を注ひだのである、

▲斯くて大院君に於かれてはいぢらしくも日夜發愁苦悶搆へ難き念を抱ひて只管時到るを待つて居つたが其の內三浦梧樓氏が（井上公使の去りし後）全權公使として京城へ乘り込んで來たのでコリャー必ず大勢の局面が何んとか轉變するに相違ないと心窃かに豫期して居つた、所が果せる哉形勢は一變して何分の曙光を認めて來たのであるスルト時は明治二十八年十月八日まだ明けやらぬ秋の曉宮中に於て端なくも一齣の悲劇が演せられた……悽絶慘絶、現場の光景見るが如しである、而して井は遂に言ふ迄もなく彼の歷史に有名なる王妃事件であつた、

▲閔妃の兇變に關しては政界の形勢、勢ひ變らざるを得ない、而して其の形勢の變つた結果は言ふ迄もなく從來露黨に變つて居つた閔妃一味の勢力が俄に衰へた事であるサア斯うなると今迄閔妃の信任を受けて居つた彼れ允用完用の兄弟は恰かも木より墜ちた猿の如く呆然として自失せざるを得なかつた、果せる哉彼れ等は大に變心し先明した、併し何のやうに權勢に和し名利に趨るの念盛んなる彼れと雖も豈夫今となつては再び元の如く舅大院君の麾下に馳せ參じる譯にも行くまい、而り彼れの性質としては感心にもソレ丈けの事は敢て爲さなかつた、依つて彼れは例の露國公使ウェバー氏と之が善後策につき極力計るところがあつた、

●四月韓國氣候概況

本月の平均氣壓は之を前月に比すれば各地概ね三粍低し然れ共其傾度は約二粍の差を以て西海岸より漸次東海岸に低く其狀態殆んど前月と相似たり風向も亦隨て北乃至西方を占め風力は一樣に稍微弱なり氣溫は春候に入りしより其追加著しく降水量は南岸に於ては三倍乃至五倍の增加わり其他は元山を除き孰れも多少の增加を見たり之を既往四年に比すれば氣壓は一般に高く風力は殆んど等しく氣溫は中部以北に稍高く降水は南海岸に多くして北部に於ては甚だ寡なし前項を分て示せば次の如し

氣壓　平均氣壓は滿州附近に高く即ち龍岩浦より仁川に至る沿岸地方に最も高くして七百六十三粍七城津は最も低くして七百六十一粍八を示し前月に比して最も低度なりしは北西部にして即ち龍岩浦の如きは四粍弱の低下なり

氣溫　平均氣溫は釜山の十二度より龍岩浦の七度七の間にありて元山以南凡て九度以上にあり而して最高極は中旬末より下旬に至る數日間に起り大邱の二十七度四（十九日）より龍岩浦の十九度〇（二十一日）に至る間にあり最低極は釜山大邱を除きては概ね初旬に起り釜山の四度七（十四日）より龍岩浦の氷點下二度四（七日）に達せり而して其氷點以下に下降したるは龍岩浦の外京城平壤城津の三箇所なりし

降水量　降水は南海岸に最も多く釜山は二百卅粍餘に達し大邱、木浦にも百粍以上わりしが北進するに從つて其量急減し元山に於ては十粍に達せず城津の如き僅に二粍餘なりし

蒸發量　蒸發の最も多かりしは仁川より平壤に至る間にして百五十粍餘に達し大邱附近最も少なく百粍に及ばざりしが其他南海岸一帶及北部は殆んど大差なくして百二十粍內外なりし

小說 新不如歸（三十二）

篠原嶺葉著

敏男は容寛を取出して悠々と喫しつゝ、遙の海上を餘念なく眺めて居る百合子に對ひ
「ね百合さん、百合さんは何と思ふか知らないけれど、人間と云ふものは妙なものぢやないか。」
百合子は敏男の顔をジッと視た。
「此間まで辭一つ交した事のないもの同志が、這麼に仲能くなると云ふは、些と考へると何でもないやうだが、深く考へて見ると實に妙なものだね。」
と、結婚に依つて生ずる夫婦間の愛情に太く感じた如く云ひかけた。
百合子も、成程と感じたか、
「眞個ですね、他人同志が這麼に心易くなるとは、實に不思議ですわね。」
「夫婦になると何故這麼に心易くなるだらう。」
と莞爾り笑へば。
「私存じませんわ。」
と、百合子は極り惡るげに笑を浮べた。
「それは知らなきや知らないで良いが、では一つ百合さんに尋ねたい事があるんだが、兄さんのお話では、方々から貰ひに來て、中には堂々たる華族から貰ひに來たが、百合さんが承知しないために皆んな斷つたと云ふお話なんだが、華族から貰ひに來てさへ行かない程の百合さんが私のやうな財產も名譽もない軍人にどうして來て下れたか、實に不思議で堪らんのだ、全体奈何云ふ氣で承知して下れたのかそれが聞かして欲しいのだ。」
「……。」
百合子は婉に微笑するのみで、何とも答へぬのであつた。
「聞かして下れたつて可いぢやないか、何も他人に話すぢやあるまいし。私だけ聞くんだから……。」
「だつて何だか極が惡いんですもの。」
「那樣事位極が惡くて、能くお嫁入が出來たね、はゝゝゝ。」
「あれまた那樣事仰やいます……ではお話致しますから、お笑ひなすッちや可厭でございますよ。」
「なんで笑ふものか、謹んで聞くよ。」
百合子は羞しさうな樣子で
「眞個の事をお話致しますと、貴方と結婚致すやうになりましたのは、私の一心が屆いたからですわ、貴方は御存じないでせうけれど、私が貴方にお目にかゝりましたは一昨年の春でございます、丁度お友達の宅から歸りがけでした、氷川の勝伯爵の前を通りかゝると、貴方は鞄を入れた籠をお持ちなすつて、坂を上つてお出でなさる所でした……、其時の御容子が不思議な程身に泌みまして、何程忘れやうと思ひましても思へば思ふほど忘れられないですもの、だから私、誰にも口外こそ致しませんけれど其時自分で心に固く誓ひましたの、貴方さへ夫婦になれない程なら、一生獨身で送らうと思ひましてですから兄からもお聞き下さつた通り、華族から貰ひに參りましても、甚麼先方から縁談がありましても、可厭だと云つて我任意を云通して居たのです、所が私の心を神樣が憐と思つて下すつたのか貴方がしかも自分で貰ひにお出で下すつたものですから、私眞個夢ぢやないかと驚きましたわ、ですもの、私の承知したのは何にも不思議はないぢやございませんか。」
言ひ了つて、有繋にパッと顔を紅めた。





▲米艦歡迎準備 米艦隊は十月來邦に就き海軍省には歡迎準備に着手せり(八日東京發電)

▲道德會議と我が代表者 本年九月倫敦に於て萬國道德會議を開催するに就き我國よりは北條廣島高等師範學校長を派遣することゝなりたり(同上)

京城新報

六たび伊藤統監に與ふ

伊藤統監閣下、閣下辭職の期も漸く近に迫りしと聞く、果して眞なりや、今回の韓內閣更迭は閣下が中心より希望する所に非ざるも、就任以來何等爲す所なく漫然歸朝するは世人の思惑如何あらんと懸念して爲したる小刀細工に過ぎずと說くものあり、亦宋秉畯の强請に依り余儀なくされたりと云ふ者あり、二者共に余輩は信ぜざるなり [illegible]

閣下、我討伐軍隊の經過は頗る良好なりと云ふ [illegible] 殊に炎熱頓に加はり、討伐者より衞生上の苦悶多し、今後炎熱の加はる每に更に甚しきものあらむ然れども天候は如何ともすべからず、唯血氣の健兒等が勇に而み過りて衞生に注意を缺き、從て風紀を紊るが如きことあらしむべからず、此點に於ては當局者に於て充分なる注意を拂はるべしと雖も余輩は軍隊の勞苦を想ふと共に深く衞生風紀のことを慮らざるべからず [illegible]

[illegible] 器を取て起つあり、閣下知るや、明治廿九年暴徒蜂起し地方在留邦人は悉く引揚げ、避難者結合して [illegible] を組織し各自武器を携へて地方に [illegible] 大に效を奏したり、此團結の力なるものが如何に强きかを示したり、當時我官憲の意志薄弱にして行動を制肘したるため意の如くならざりしも、意外の功蹟を顯はしたるは世の知れる所なり [illegible] 閣下にして之を斷ずるの勇あらば眞に地方の面目を一新し得べし、敢て閣下の清鑒を煩す、頓首

現內閣運命

椅子の轉換を了へたる韓內閣が永續すべきや否やは巫女を以てするも確かに賭し得べからず只余輩は統監が椅子轉換を發意せざりし眞相に於て妙味を發見す

醫學博士

僅かに草根木皮の域を脫せんとする濟衆院の卒業生に醫學博士の稱號を與へよと內部當局に向て迫りたる者ありと傳へらる當局は斯る輩には豚を見ずして匙を投げたるな

東京電報

大博評議員任命

日本大博覽會評議員は各省次官兩院議員各府縣實業家等より百三名今日任命されたり(六日發)

鐵道會計調査

政府は鐵道特別會計調査の爲め遞信大藏兩省官吏を以て調査會を設置す可く協議すべしと

露國の悔覺

日露戰爭以來露國は黑龍江省愛琿城を中心とし附近六十ケ村を戰時占領と唱へて橫領し居たるが淸國政府の嚴談に依り遂に其不當を覺り之を還附せり

選擧法違反

內務省警保局に於て調査せる四日迄の選擧違反は四百三件にして二千四百四人の多數なり

鴨綠江森林問題

鴨綠江森林條約細目に付十月より奉天に於て日淸兩國の委員の會見をなすべし(以上七日發)

各地電報

●露國文豪來韓 露國文豪ランチエンコ氏今朝當地發急行列車にて京城に向ふ(八日釜山發)

雜報

大臣交迭と暴徒

今回の小政變は大局上直接に何等影響する所なきは人の認むる所なるも韓人側の傳ふる所によれば地方の暴徒は此の政變により一部に於ては益々盛んなるに至るべしと云ふ尙韓人の一部には此の小政變を以て大勢上何等得る所なきのみにして大勢上何等得る所なく單に國民の疑惑を招くに過ぎずして無益にして且無意味なる措置なりと說き居れり

●聯隊長會議 昨日午前より師團司令部に於て駐劄軍各聯隊長參集して引續き兩三日守備區變更上の會議を開かるゝ由

●陸軍衞生部會議 昨日午前十時頃より軍司令部に於て駐劄各衞戍病院長各軍醫正參集して衞生上に關する會議を引續き兩三日開會せらるゝ由

●典獄會議開會 既報の如く新任監獄署典獄は昨日より法部に參集し事務打合會を開催せり

●內閣交迭と秘書官 今回の大臣交迭は次官以下に移動を生ぜざる可き事は既報の如くなるが唯秘書官だけは交迭ある筈にして近々發表せらるべしと聞く

●淸州電信架設 今回忠淸北道觀察府を移轉せられたる淸州には未だ電信架設せられ居らず五里を距つる鳥致院に於て取扱ふ故極めて不便に付目下內部より通信監理局に交涉中にして遠からず架設を見るべしと云ふ

●忠北觀察府移轉濟 忠州より淸州に移轉せられたる忠淸北道觀察府は去る六日全部移轉を終りたる旨其の筋へ電報ありたり而して此の移轉に關し忠州人民は大に遺憾とし儒生等郡衙及び觀察府に到りて陳情する處ありたるも地方行政上の便宜に基きたるものなる事を說明せられ何れも止むを得ざる事として無事移轉を了りたりと云ふ

●軍隊學徒衝突の眞相 事少しく舊聞に屬すれども曩に義州電報に見へたる同地守備隊兵と基督教學校と衝突し遂に同學校を破壞したる眞相を聞くに初め同地守備隊兵二十餘名行軍の途上同學校學徒の一隊に會したるに學徒は軍隊に道を讓らず少しく口論したるも無事に行違ひたるに其の後守備隊兵が同學校門前を行軍せし際學徒は衆口一齊軍隊の惡罵嘲弄を逞ふしたるを以て歸隊後隊長に報告し隊長は其の無禮を憤りて直ちに學校に對し謝罪すべしと交涉したるも要領を得ず遂に兵卒は同校に到りて謝罪を迫りしに却て罵詈を加へたるを以て茲に一場の衝突を起し遂に學校の一部を破壞するに至りたるものにして後學校に對して或方面より三百圓の見舞金を贈りて落着を見しなりと因みに同地方の私立學校は近時運動會に熱中し殆んど學校教育の本旨を忘れたるには非ずやの觀あり寧ろ一種の示威運動の如き狀態を呈し居れりと云ふ

●閔孝植の戰死 黃海道西南部を橫行して屢々討伐隊に抵抗し幾多の良民を殘害し數多の財物を掠奪し暴戾殘忍を逞ふせる賊魁閔孝植を殪したるを聞くを得たるを以て報道せん五月三十一日午前四時頃載寧憲兵分遣所木下上等兵以下五名他通譯より成れる搜索隊は前日より徹夜行動しつゝ信川郡滋沙面龍頭村に到り搜索中一少年(十二)の同村より約千米突東北方同面靑龍洞(戶數三)方面に逃走せるを發見したるを以て一行は急追して之を捕へ訊問の結果首魁閔孝植以下の賊徒村內林速長なるものゝ方に潛伏しあるを探知し同家に向ひたるに同屋內より突然一行に對し小銃を亂射したるを以て直に散開し同家を距る五十米突の地に於て地物を利用し劇戰約一時間の後坂本、森光、西上等兵は隙を窺ひ飛彈中を衝き同家屋の左側に迂回して射擊したるに首魁閔孝植は右手に拳銃を握り左肩及足部に銃創を負ひ鮮血淋漓として現はれ同家屋より西方に向け逃走したるを以て之に急射を加へたるに同家より約二百米突を距る水田中に於て十餘の銃創を被むりて斃れたり而して又閔孝植の部下にして庶務長と稱する河光澤は足部に負傷したるまゝ同家裏より逃走せんとせるを以て之を急射して殪せり此時賊よりの射擊は一時中止せるも尙は家室內に殘賊の潛伏せる見込なるを以て一行は之を搜索せんとし先づ上等兵長田喜四郎は屋內に進入したるに一賊あり突然短刀の如き銳利なるものを以て同上等兵の左眼上部に切付け長さ及深さ各約六分の創傷を負はしめたるも同上等兵は之を屈せず直ちに之を射殺したるも同上等兵の創口より出血甚しきを以て應急手當を施し一面殘黨搜索中隣家に潛伏せる數名の賊徒は家に火を放ち煙に紛れて同家裏より逃れ出たるを以て一同之を射擊して同家附近に於て其一名を殪したるも他は同家後方森林中に遁走したるに依り之を追擊したるも其蹤跡を失したり賊の數約十名にして賊の死四鹵獲品拳銃一、彈丸若干一囊類若干印一、閔孝植印一點なり

●江界地方の狀況(承前) 又部公私の教育機關としては東部南洞に日語學校なるものあるも同校は其勢力微々として振はず學生僅かに十七八名なりしを郡守强制的に兒童の入學を促したるの結果昨今多少の生徒を增加したるの有樣にして表面上は目下學生五十名と稱あるも其實日々登校するものは三十名以內に過ぎず而して將來日語の振はざるものは主として耶蘇教の勢力に壓せらるゝが故なりと雖も一は又の教員其人を得ざるの結果なる可く現に日語教員鄭擧球なるものは病と稱して引籠り上級生徒をして教鞭せしめ居るの有樣にて教育に關しては一として公の設備あるなく普通教育は專ら各人の希望に放任しあるが故に志あるものは邑內の學識あるものに就て教授を受くるに過ぎず之れが爲め相當學齡に達し居る兒童と雖も徒らに日を遊冶に費しつゝあるもの多きの狀態なり又賊徒に關しては江界郡龍林面及廣城面附近に出沒し金鼎巽の率ゆる一隊にして彼等は常に江界郡與川郡長津郡の境界なる山林の各部落を荒し自ら義兵と稱し居るも日本軍に抗するの勇氣なく常に斥候を商人に裝はしめ遠く派遣し日本軍の來るを聞かば直に遁走するを常とする者にして又彼等の出沒する地方は日本軍の駐屯地を去る遠きを以て同地人民等は後難を恐れて稍々賊の便宜を計りつゝある者の如し然れども前後二回の討伐に依り大に我兵の駐屯を歡迎し希望するに至れる狀況にて官民共に日本官憲に對しては表面好意を以て之を迎へ且つ信賴しつゝある如き風ありと雖も翻て其內實を窺へば誠意なきにあらざるものゝ如きも自ら起て排斥せんとする如きは確固たる意を有するものなり又地方官吏にありては日本官憲の駐屯を厭ふの風あり其原因とする所は官吏は從前專決時代の如く民血を絞りて私腹を肥す能はざるに起因し人民間にありては日本官憲の入來尙日淺きが故に其誠意を知らずして唯名を韓國保護に借りて其實掠奪するの目的にあらざるかの疑懼と一方耶蘇教牧師等が勢力扶植の手段として中傷に起因するものなるが如し然れども一度日本官憲に接し或は其裁判を受けたるものは處するの公正なる點に信服しつゝあり(未完)

●農場襲はる 六月二日忠淸南道鴻山郡上東面扶餘頭なる韓國勸農會支農場に賊數十名來襲し家屋に放火せるを以て場員は之を防戰し之に潰亂せしめたり其損害は左の如し

一、家屋一棟半燒損害百圓 一、雜道具若干損害五圓

●愛國婦人會演藝會 軍隊慰問並に救護に關する資金を得るの目的を以て企てられたる愛國婦人會慈善演藝會は去る五日より一昨七日迄三日間歌舞伎座に於て開催せられたるが初夜演奏に先ちて相談役兒玉氏より挨拶を兼ねて本部の近況に就て述ぶる所ありソレより番組に依り順次開演し何れも大喝采を博したるが三日間とも立錐の餘地なき程の大入りなり而も場內は極めて靜肅にして終て喧擾のことなく加ふるに三日目には伊藤統監の臨場あり、しかも公には活八齋孝女白菊、及韓國皇太子殿下御遊戲御實況等を觀覽せられたり其他貴賓としては韓國の大官連並に觀察使等多數なりしが、トモカク非常の盛會を極めたり

●割引特典の取消 本邦及び仁川にて釀造されたる淸酒の輸送に就いて曩きに木材輸送の運賃割引の際淸酒も亦其の本邦造と韓國製とを問はず何れも割引することゝしたるは既報せし所なるが其後鐵道運輸課にては仁川南大門間の運賃を割引するは京釜線の貨物を減少せしむるものなりとなし今回仁川よりの淸酒運賃の割引は唯仁川釀造のものに限り他の本邦製のものは特典を取消したりと云ふ

●鑑定價格と淸商 牛皮に對する關稅鑑定問題に就ては既報の如くなるが過日來漸次下落せし支那綿布の鑑定價格に就ても淸商人間に慊焉たるものありと見ね此淸商側より具陳する所ありたるが稅關當事者に於ても既に牛皮と等しく目下全力を注いで調査し居れば兩三日中には解決を見るべしと云ふ

●仁川教育會總會 仁川私立教育衞生會は來る十一日春季總會を民團役所樓上に開催する筈にて折柄寄港す可き東京府立第一中學校長の講演あるべしと

●仁川地主と民團 仁川地料問題に關し地主側委員青木一葉、篠木伊勢松、末永省三外數氏は昨日午後二時宅合名會社仁川支店に會合し決議の結果を齎して同三時更に民團役所樓上に於て民團側委員と會見せり

●練習艦隊の出港 仁川碇泊中の練習艦隊は昨日午前十一時拔錨旅順に向ひたり

●市原一銀總支配人の視察 市原第一銀行韓國支店總支配人は北韓地方金融狀態視察のため往復約一ケ月の豫定にて今朝南大門發列車にて出發せり而して十日別項記載の藤原農銀課長と共に釜山にて乘船する筈なり

●基督教青年會 當地在住の基督教信者の重なる人々發起となり京城邦人基督教青年會設立の企を爲せる由なり

●三土代議士來京 前學部書記官にして今回香川縣より選出せられて代議士となりたる三土氏は一昨七日夜家族引纏めのため來京せしが他に要務もあり約二ケ月滯在の上歸國する筈なりと云ふ

●藤原農銀課長の出張 藤原度支部理財局農工銀行課長は水野同課主事同道明九日夜行列車にて出發北韓視察の途に上る釜山乘船は十日の豫定なり

●統監の寄附 伊藤統監には今回の演藝會に賛同せられ特に金三百圓を寄附せられ長谷川軍司令官、岡崎師團長も金若干圓宛寄附せられたり

●韓官任命 六月七日左の通り任命ありたり

任警視廳繙譯官敍奏任官四等 警視廳繙譯官補 中村健太郎
任道書記官敍奏任官四等 財務署財務官 澤田乙三
任財務監督局事務官敍奏任官四等 財務署財務官 今井潔
任財務署財務官 財務署主事 高崎親和
任判事敍奏任官三等 八橋容
補大審院部長 判事 鄭寅興

●趙重應及光岡 農相趙重應は是迄隨意に宮中に出入し來たるが數日前或筋より以來は公用の外の出入を遠慮すべしと申渡されたりと云ふ亦趙の緣者光岡某も今回宮中出入を禁ぜられたりと云ふ

公人私人

△松平直平(子爵) 六日來京七日平壤に向へり
△佐々熊太郎(東亞煙草會社長) 一昨日釜山より入京巴城館
△長尾元衷(同社員) 同上
△岩井長太郎(統監府技師) 公用にて來京巴城館
△本田幸介(農學博士) 同上
△西平(海州地方裁判所長) 一昨日來京天眞樓
△河野正二郎(第一銀行安東縣出張所長) 一昨日來京不知火旅館へ
△宇佐川一正(陸軍中將) 平壤より歸京巴城館
△眞崎喜三郎(同副官) 同上
△勝鉦太郎(大審院檢事) 六日入京不知火旅館
△稻井薰(鐵道技師) 三日月旅館
△三橋嘉之太(工兵少佐) 一昨日來京天眞樓
△丸井政亞(廿五旅團長) 公用にて一昨日入京山本旅館
△松下秀夫(同副官) 同上
△村山佐五郎(三等軍醫) 浦尾
△鶴尾謙親(統監府技師) 公用を帶び草梁より來京浦尾へ

●近事片々

▲五日夜深更萬籟寂として聲無時計の音響凄く主客四人頭を鳩て凝議せるは何所ぞ
▲閒を止めよ是統監邸完用秉畯兩分秘書なり閣員異動の談議茲に熱せりとの風說也
▲聞く此際宋秉畯は高になり拙者內相となるとは暴徒は僅に半年內鎮定致すべしと
▲無論風說には相違無からむが若し事實とすれば[illegible]が茶を沸すとは是也
▲宋君時々突飛の放言あり或は實ならむも豈夫統監が眞面目に之を受けもせじ怪事也
▲此議に於て完用氏多く語らず宋氏に含む所ある爲に非ざるか幾通の韓人語る
▲趙羲淵張博等の車類に宋氏の宅に飛ぶ之れ何等を諜報するものにや消息せらる
▲今次の異動は宋氏の勢力伸張したるを意味す完用氏胸中多少の煩悶なきや疑はし
▲重應趙氏は何事も知らず不意に農相轉任を聞て欣けれども甚滑稽にして愛敬あり
▲拜し趙氏も中々寂しいもの何でもお受しで綿々悠々たり趙氏今井の得意知る可なり
▲任善準氏の度支廳永喜氏の法部は何共評するの語なし只思ふ現內閣の前途如何
▲鶴原君正金銀行頭取たらんとの說あり確に定まれる如く云ふ者あり世は隨分樣々
▲龍島には藤田組云々と兎角君は實業界に緣が多し賓の總務長官は適任には非ず
▲外交官の異動漸く發表さる珍田の獨逸大使は先づ適任の方也林の駐伊は些と考物
▲龍助林は歐州の外交官には不向却て次官が適任石井の次官少々覺束なし撰拔拙也
▲山座の駐英參事官階段として可也殊に親分小村大使として在將さに其處を得たり
▲倉知の政務局長山座の跡には少々物足らぬ心地せらるも亦好局長たる必不可なし
▲萩原の通商局長も可なり茲に次官と大臣とを更に一新せば最も妙ならむとは衆評
▲高橋の親玉望小太落撰して精神に異狀呈したりとは事實なれば膽王の小さき奴也
▲戶水博士曰く現內閣の不信任には何派を問はず贊成せんと何時も元氣の快男兒也
▲米國大統領落馬して溪流に墮ちたるも溺死を免れたりとの報あり先以て目出度し
▲斯る危難に遭ふも更に騎行を續けて悠々踏歸せりと英雄の面目躍如として顯はる
▲橫濱の鳥商某市唯附近無人島に鳥類捕獲の爲に大勢を引連れ冒險的遠征をなせり
▲然るに船長違約して再び來らず廿有餘人餓死せんとし漸く伯剌西爾軍艦に救はる

雜報

●戀の右夫人（下）

△毛色異りの戀の味▽
△先夫に捧げた操を其儘▽

既に一たび夫として連れ添う人に逝かれたる後ちの光岡竹子こそ未だうら若き花の姿の實に痛々しい者であつたが夫れも當座のこと淋しく殘々たる身の爭でか大人しく孀婦として過ごすを得べき誘ふ水しあらば何時でも御座れ去なんとぞ思へる矢先き黒冠白衣の趙重應が二階に下宿することゝなつたれば宛ら棚より轉げ來た牡丹餅の如く有難がり可笑しい程鄭寧に待遇すれば趙先生頗る得意半可の日本語を操りて先天的に巧く仕込まれた世辭の有りだけを盡くして若後家光子を讃美するにぞ光子も知らず〳〵の中にグッと反り身になり日本の娘姿一番美しいと自ら日本一の美人を氣取り且つは箸の上下にまで氣を附けて遣れば久しく情に渴せし趙重應天女の如くに光子を敬ひ愛し遂に割り無き關係を結ぶに至れり當時光子は趙重應が所謂亡命の志士と云ふ所から是れなん韓國の西郷さん坂本さんの徒なるべしとうろ覺えの維新時代の豪傑を連想して一たび機運に際會せば趙さん必ず大臣の位置を占むるならん其の時こそ己れ大臣の北の方となりて是れ見よがしに振る舞ひ呉れんと淺墓な女の虛榮心を土臺に玆にスウイトホームは築き上げられたり去れば趙重應がヨボ臭きも蒜臭きも無論厭ひもせず先夫に捧げた節操を其儘趙重應に捧げ盡くして斯くて日を經時を閱するに隨て二人の情交は益々密にして光子が姿態は他所目には否やと云ふ程だらしも無くなりたるが斯かる間にも時勢は幾變轉して趙重應先生も久方振り生れ故鄕の韓國に歸るを得るに至りしかば一先づ歸國して光子は後より呼び迎ふることゝなしたるなり當時光子は髭ひの末山の奧虎伏す里も厭はねば此の千里を隔つて一緒にと駄々の有つ丈けを捏ねたれど趙君の四圍の事情之を許さぬものあれば已む無く熱い涙をばふり落し別れたることを其の心情寧ろ哀れなりき

（趙重應が歸韓後に於ける光子との關係及び光子が遂に迎へられて右夫人となれる迄ますに至りし經過は更に筆を更めて記すべし）

●一昨夜の火事

一昨夜十時四十分頃南署水下洞十七統一戶前内務主事朴姓德方より出火し同家九間を燒失し同十一時二十分鎭火したるが一時銅峴附近は非常に雜沓を極めたり原因は蠟燭の火より石油に燃え移りたる爲めにて損害は建物價格約二千圓及び家具其他一外に現金千三百圓を燒失したりと

●韓人の大怪我

南署苧洞梁龍甫（六十）林漢守（四十）の兩人は昨朝七時頃より本町九丁目にて土塊を採堀し居りたるに俄然約六尺の高さより大なる石塊作業中なりし右兩名の上に落下し來りたる爲め兩人共重傷を受け南部署及銅峴分署より醫師警官等出張して應急手當を施し兩名は孰れも大韓醫院に送りたり

●運動會修羅場と化せんとす

去る五日城内商務署局員等は運動會を催さんと妓生二十四名を引連れ西大門外奉恩寺に出掛け妓生をして舞蹈をなさしめ大浮かれに浮かれしが同地附近の村民等數十名は此妓舞を見物し居りしに如何なる機會か商務局員と村民の間に喧嘩を始めしかば村民中に直ちに村内に走せ歸り應援を乞ひしにぞ夫れと云ひ樣數百名の村民得物を携へ押掛け商務局員を打殺せと猛り立ちアワヤ一場の修羅場を演ぜん勢ひなりしより同地駐在の巡査は此体を見て大に驚き此旨西署に急報せしかば西署よりは直ちに巡査數名馳付け村民等を說諭し解散せしめたれば幸ひに事なきを得たりと云ふ

●新町の素通り

九日の月明りを利用して久しく音訪れなかつた東四軒町の知人を訪問すべく新町を通つた其際眼に止つたこと一つ二つ報道しよう先づ第一に一丁目の取付に久しく空家となり數月間風雨に洒されし居りし皆春樓の跡は曾て損失を苦にし自殺した元大黑樓の主人清田國藏が亡魂でも出そうに物凄きまで大破し居つたが今度山下某なるもの仁川の清葉樓を移して開業したので以前の面影はスッカリなくなつて今では電燈眩きまでに輝き絃歌湧き綺羅翩るると云ふ底に化し娼妓は四五の化物容姿を粧へて越部吳客を待つもの〻如かりし清月、松榮、第一本支店、大桝、皆春等の各樓は悉く張店としたので此頃の月に浮かれてから素見に入り込むもの多しと見へバナナ、鳥打、麥稈など色々の帽子を冠つた男が右往左往して仲々賑やかなりし見へた自然主義の大將らしく肥滿した大男がパナマを阿彌陀に戴き丸にイの印付いた提灯を點じた人力車に乗りて驅付け第一樓本店に這入つたのを見た此外に通信管理局のチョンガ生活を行つて居る人も來た皆春樓の門前には客引でもする積りか仲居か女郎か知らねど四五人待顏に立つて居た同樓の隣の氷店の奥には何とか淨瑠璃會と筆太く書いたビラが下りて居たから一寸覗いて見たがまで始まらないと見へ簾が垂らしてあつたのみで師匠と見へて盲の爺が三味の音締を合せ居つた其側に小さな火鉢を前に何處かの女郎か知らねど二人オールドを吹かして座りて居つた斯く左顧右眄して四軒町道路に向ふ際インバチスを被た紳士が來た見れば見覺のある人だつた聲掛けるも氣の毒と思ひ默つて通り過ぎた先づ素通りは右の通りである

が新町の景氣を綜合すれば餘り上景氣とは思はれず云はゞ娼況沈衰とでも云ふべきであろう（馬鹿蕩役）

●南山の仕掛け花火

明十日午後八時より佐賀縣人一番ヶ瀨林一外三名の者の開催に係る仕掛煙花を南山公園に於て施行し一般の觀覽に供する由當夜煙花の種類は△大櫻花△吉の川△八重櫻△龍田川の紅葉△枝菊△下り藤△遼陽の激戰等なりと

●火藥を落す

東大門外興業町に住む表柳吉妻ユキは六日正午頃南山町三丁目より木炭二俵米一俵火藥一貫目を韓人荷車に積ませて歸宅の途東大門より映楓亭の間に於て右火藥を遺失し其の筋に屆出でたり

●天然痘發生

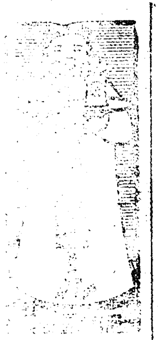
京城旭町一丁目七番戶下村益吉方寄留田サヽヨ（三十）は五月三十一日に京城相生町十八番地上野源藏は六月一日に京城水標橋通番外東郷八十吉（四十）は六月一日に何れも發病せり

●軍艦給仕の逃亡

昨八日迄仁川港碇泊の軍艦嚴島乘組給仕田代一（二十）は六日上陸したる儘行衛不明となりたるを以て其の筋に搜索方を同艦より願出たりと

●韓人の喧嘩

儲慶宮前に住する吳景五（五十）と云ふ韓人は一昨日長谷川町一丁目宮田洋服店前に於て他の韓人と喧嘩を始め大道にて双方毆り合ひ居りたるを警官に認められ引致されたり



●狂犬

貞洞許慶方飼犬は去六日午後三時頃樹洞七十三統五戶趙和順（三十）に咬み付き重傷を負はせたりと

●韓人の醉漢

住所不定韓人勞働者吳聖佐、高用肩の兩人は一昨日午後十一時頃分頭司齋洞の酒幕に於て喧嘩を始め共に劣らぬ無いので近所の者其旨警官に知らせて辛つと取鎭めたりと

●盲人の無錢飲食

京都伏見生れの伊達勇二（二十）山口縣萩生れの廣石三郎外一名の按摩は盲人の悲しさで平素格別面白い事も無いので三人共此頃頗る鬱する所ありたりと見へ一昨夜大和町二丁目の飲食店松の家方に登樓し極めて愉快氣に金四圓五十錢餘に相當する飲食をなしたるが一同懷中に持合せ無く遂に警官の厄介となり伊達勇次が着用の一閑羅羽織を脫いで事濟みとなりしとは盲人なかく太いことをする

●江川一座の開演

三代目江川萬吉一座は愈々昨日より大和町一丁目に於て開演したるが同一座は他の足藝輕業師と異なり自ら一世一代と稱する程にて場面には日高川大江山、信田森其他興味多き所作事を交へ其の所作事の妙と技藝の妙と兩つながら相俟んで當時の盛況を見る想あらしむる者あるを以て好評嘖々到る處に大喝采を博したる者にて尚前回來韓の際は駐屯各軍隊及び仁川民團等より賞狀感謝狀等を贈られたる者數十通に上りたる程なりしと因に同一座は今回を以て四代目に名代を讓る筈にて今回は三代目が所謂一世一代の御名殘り興行として大車輪に勉强すると云へば定めて大入りを占むるなるべし

●天氣豫報

（自八日午後六時 至九日午後六時）
西の風晴れ
●八日午前六時各地氣象概況
北又は西の風吹き一般快晴なり

廣告

西の宮た樂の述懷(八)

◎斥候ご綽名さる

妾が聘ばれて往くお座敷は大概ツマ宴會が多うムいましたソレで妾はお轉婆な性分ですから宴會のお座敷に參りましても他の藝妓衆よりは隨分酷い目にも逢はされました取り分け軍人さんのお座敷へ聘ばれて往きますと限つて衣物にはシミを拵へる當は必ずこはされる又運が惡いと生疵のお土産なぞを頂戴するといふ鹽梅でしてね併し私も負けずにハシヤぎました御身分のある方であらうと何であらうと夫りやもう頭でなしにポン／＼素ツ破抜きましたがしまするさ『如何もあいつは仕様のない藝妓だ』マルで隊に居る斥候(馬の名)見たやうな奴だ』と軍人さんのお仲間からトウ／＼斥候といふ綽名を附けられて了ひましたヌシて又夫れを聞き傳へた監獄署の御連中は『隊で斥候といふ名を附けたのなら俺等の方でも矢ツ張り馬の名を其のまゝ亞羅比亞と貴樣に命名しやう』といふので其の座敷へ出ますると亞羅比亞／＼されて呼びになる又警察の方々も隊が斥候で監獄が亞羅比亞との名を附けたなら僕等の方でも暴れ馬の玉浦と呼ばう』すると縣廳の方々も默つて居らず『貴樣は大分方々から綽名を貰つたさうだから吾輩共からも一つヤンキー(猿の事)といふ名を遣らう』とのことでソレはもう皆さんから五月蠅程綽名を附けられたのです、ソレで其の當座非常に困つたのは第一お茶屋さんで『オイコラ斥候を呼んで來い』『藝妓を揚げるなら暴れ馬の玉浦にしろ』『ヤンキーは面白くつてよい』などとおつしやるので女中さん達はサッパリ何んの事やら呑み込めず暫らくモジ／＼した上二三度押し返してお聞き申した上やつと私といふことが分つて口を掛ける始末ですから私が『ざうも今晩は有難う……』と帳場に御挨拶をすると『お前さんは一体幾つ名前を持つて居るのです什麽も手數がかゝつて仕樣がないから持つてる丈の名前を書き附けて下さい』と眞面目になつて卷紙と硯箱とを突き附けた茶屋などもありましたが隨分可笑しいお噺ぢやありませんかソンな調子でしたから藝妓を色戀で呼ばうといふお客樣方には御贔負がないから面倒臭いことなどにぶツ突かるやうな氣遣なしでソレはソレは呑氣なものでした併し餘り呑氣過ぎまして人一倍我儘を働き無け無しの身錢を切つては物見遊山に出掛ける又日に何回といふ事なしに買ひ喰ひをするソレに分不相應な義理を張るといふ工合でしたから吉原に居た頃なやうな大した金額ではありませんでしたがヤハリ其方此方に借金が出來ましてソロ／＼苦しくなつて來たのですソコで相棒の藝妓とあゝ日いろ／＼と相談しましたが外に仕方がありませんから暫時の間目をつぶつて不見轉をやつて見やうぜいふことになりました(つゞく)

釜山北行 … 南行 … 南大門北行 [illegible]